

令和5年度 叡明高等学校 学校自己評価シート

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 目 標	建学の精神である「みんなから愛され、信頼される人」「社会に役立つ人」「勤労を尊び前進する人」を育てることを目標とする。「叡智・高志・協調」を教育の理念とし、①自主自立の精神を養い、自ら学び自ら考える力を育む。②確かな学力と規範意識に基づく豊かな社会性を養い、たくましく生き抜く力を育む。③思いやりの心や個性を伸ばし、一人ひとりの夢や希望を育む。以上の3点を具体的な教育方針とし教育活動を行う。					
本年度の目標	叡明高等学校としての8年間を検証し、継続または発展させるべきことと、改善すべき点を明確にし、それらを踏まえて学習活動の指導、規範意識や道徳心の涵養、基本的生活習慣の定着を図る。					

	評価項目	現 状	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策	学校関係者評価	
								実施日 令和6年6月10日	
								学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	教 務 業務の 効率化 教育環境 の充実	<ul style="list-style-type: none"> 各部署や学年との連携が不十分。 出席簿・調査書等の公簿の記載についての不備。 昨年度から年次進行実施の観点別評価、新様式指導要録、新教育課程の授業について、安定的かつ確実な業務の必要性。 今年度5月8日より、新型コロナウイルスの扱いが5類に移行するため、欠席や成績処理において行ってきた特別な措置を廃し、他の感染症と同じ扱いにする必要がある。 新指導要領に対応するために各教科の準備を充実させる必要がある。 次年度より変更する教務システムに関して十分な準備が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 部長間での意見交換の場を意識的に作り、意思の疎通を図り、協力関係を強化していく。 教務部会を充実させ、教員にも問題意識を持たせ、活発に意見交換をして検討していく。 教科会議の充実を図る。特に、双方向型授業、生徒が主体的に学ぶための授業づくりを推進する体制を整える。 個々の教員業務において、不備・過誤が起こらないように、教務部が主導し、適切な時期に適切な指示を出す。 現在行われている業務を精査し、効果と効率を考え、業務全般を整理する。 新教務システムの導入にあたり、本校の成績処理等について、綿密に業者と打ち合わせを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教務部が主導して教務的な業務が行えているか(余裕を持った業務日程の設定。適切な業務指示など)。 部署を越えておける協力関係をもって業務を行えたか。 教科指導部及び教科主任との連携(教科の状況把握と適切な指示)ができたか。 学年主任会の開催と指示及び情報共有ができたか。 教務部会の開催。より建設的で効率的な観点での意見交換できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への連絡や教員間の意思疎通により、新型コロナウイルスの5類移行における教務上の扱いの変更を、大きな問題はなく行うことができた。 昨年度から始まった観点別評価等、新指導要領による教務上の指示について、一つ一つのプリントであったものを改善点を検討しながら業務マニュアルにまとめることができた。 教科会については、教科指導部と協力しながら、教務的な基本的事項を教科主任を通して指示することで運営することができた。 新教務システム構築のため、ICT推進部と協力し、業者と十分に打ち合わせができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度より全学年が新指導要領によるカリキュラムとなる。教育課程の再検討も含め、指導要録・調査所等の新様式についても、実質的な運用の中で、改善すべき点を検討しなければならない。 より効率的かつ効果的に業務が行われることを目指し、教務部会で現状の課題を把握し、業務の再編成も含め対応を検討していく。また、教務部内での役割分担も検討する。 新教育課程に則った授業のあり方については、入試傾向の把握をふまえ、教科指導部と連携していく。 		
2	学習指導 教科指導 の充実	<ul style="list-style-type: none"> 難関大学合格者が少ない。 土曜講習での代ゼミサテラインや、スタディサプリ、スタディサプリEnglishを通して、タブレットを活用した学習が定着しつつある。 各種検定試験の受験者や、外部模擬試験の受験者が増加している。 語学研修への参加者がまだまだ少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部検定利用入試の普及を鑑み、全学年で英検を必須受験とし、英検取得機会を確保する。 講習で積極的にタブレットを活用し、オンライン講座の活用を定着させる。 特選においては1年次より長期休暇においても授業を進め、進度を確保し、問題演習の時間を増やす。 AI教材atama+を活用した+studyを展開し、学力と学習習慣の定着を図る。 3年目までの新任教員を対象に、駿台の教員向け講座を研修として活用。 BLENDを活用し、語学研修の案内や説明会を保護者にも周知徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学の合格実績。 模試の結果の推移。 難関大学の入試に対応した授業や講習の実施。 検定合格者数と合格率。 教員向けガイダンスへの参加数。 各種語学研修の参加者数。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般入試で難関大学へ一定数合格させることができたが、出願校数の増加は課題である。 これまでGMARCH以上の合格者はほぼ特選であったが、今年度は特進Ⅱからの合格者も増え、裾野を広げることができた。 リスニングコンテストを実施し、スタディサプリEnglishに対する動機づけとした。 長期休暇講習においても授業を実施し、進度を確保したうえで、入試問題演習の時間を取れたことは取り組みとしてよかった。 語学研修のうち、Tokyo Global Gatewayの参加者が満員となった。またBritish Hillsの参加者も過去最高となった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 安易に推薦入試に流れるのではなく、目的意識を持たせようとして、入試方法の選択をさせる指導を行わなければならない。 英検全員受験を実施したが、次は2級合格者だけでなく、準1級合格者も増やしていきたい。 オンライン講座を活用し、各講習の回数を増やすだけでなく、アウトプットの機会を設けることでより効果の高いものに変えていきたい。 長期休暇講習を拡充し、特選以外でも対面講習を実施したい。 語学研修のうち、セブ島への参加者が少ないため、今年度参加した生徒にプレゼンさせ、魅力を発信したい。 		
3	進路指導 進路指導 の充実	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学率(85%以上)を維持する必要がある。 難関大学合格者数が少ない。 難関大学や有名大学の指定校推薦の数が少ない。 高大連携の取り組みが少ない。 入試情報を掲載した「進路サイト」の生徒の利用状況を増やす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門学校希望者集会を実施して大学進学の意味をデータに基づいて説明する。また専門学校の指定校を公開しないこととする。 一般選抜受験者を対象に出願指導検討会を実施して難関大学合格の可能性を伝える。 指定校推薦の依頼文を送付するだけでなく、大学訪問を積極的に行うことで本校の取り組みや進学実績を説明していく。 協定校推薦枠の拡大だけでなく、上級学校での学習や交流の機会を増やしていく。 昨年完成した「進路サイト」をさらに充実させ、二者面談や三者面談にも使用可能なものに発展させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学率の維持(85%以上)。 難関大学合格者数。 難関大学や有名大学の指定校推薦の数。 連携事業の実施状況。 「進路サイト」の改良。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学率は86.0%で85%以上を維持できた。 難関大学(国公立・早慶上理・GMARCH)の合格者数(現役のみ)は昨年の37名から69名に伸びた。 難関大学や有名大学(日東駒専以上)の指定校は63名から92名に増加した。 東洋大学については、朝霞キャンパスと川越キャンパスに加え、新たに白山キャンパス(文学部)とも協定を締結した。文教大学については、現在教育学部とも協定締結に向けて協議を進めている。 「進路サイト」については、リニューアルはしたがまだ改良の余地があり、面談等での利用率も上がっていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ計画通り進めることができた。ただ、難関大学合格者数については、昨年に比べると大きく伸ばすことはできなかったが、目標数値にはあと一歩及ばなかった。 特別入試については、安易に指定校を希望する生徒が減少し、第一志望を貫く生徒が増えた。その結果、総合型選抜や公募制推薦での受験者が増加した。この指定校推薦以外の特別入試の対策は今後改善すべき課題の1つである。 一般入試については、受験計画が完成した後、直前になって弱気になり、出願を挑戦校から安全校に切り替えてしまう生徒が少なくなかった。この直前期の生徒の精神的なフォローが、一般入試では今後の課題となる。 		
4	生活指導 生徒指導 の充実	<ul style="list-style-type: none"> 【登下校】 挨拶する生徒は増えている。また大きな声で笑顔で挨拶してくれる生徒が増えてきた。しかし、今後は自発的な挨拶が課題。 自転車通学者の交通事故を未然に防ぐための意識が高まり、ヘルメットを着用している生徒が増えた。 制服を着崩している生徒はほとんどいない。また全体的には落ち着いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【登下校】 挨拶については、教職員が率先して取り組み、生徒とのコミュニケーションを図る。 学年集会等での自転車マナー講習や登下校指導の強化等を行う。 登下校時、校門での生徒指導部による服装等の整容指導を行う。 【指導措置及び規律】 生徒心得など共通理解事項を共有し、全教員による声かけ指導に取り組む(日々指導)。 試験での不正行為をさせない環境作りを行う。 SNSの諸問題については、具体例、本校での対処法や指導措置を生徒に伝え、理解させる。また、外部の講師を招いての講義を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と教員間の挨拶の実践。 登下校のマナーにかかわる苦情の減少と交通事故件数の減少。 高校生に相応しい髪型や振舞い(制服の着こなし)、基本的生活習慣(欠席・遅刻数などの統計)。 問題意識(SNS含む)の有無。 地域からの評判(ボランティア活動や部活動での成績など)。 	<ul style="list-style-type: none"> 【登下校】 全体的には、積極的に挨拶を心がけてくれる生徒が増えている。 登下校での自転車事故の件数は増加している。来年度も継続して指導を行っていく。 【校則見直し】 令和6年度に向けて、社会の情勢を鑑みて、校則見直しを進めている。具体的には、①整容指導のあり方②制服(オプションの導入) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や学校内のルール、生徒会及び委員会活動の活性化を図る等、生徒たちに積極的に関わらせることで、生徒自身の力をつけさせる(自己判断・自己指導)。 生徒指導は共通理解に基づき、教職員全体で行う(生徒・保護者からの信頼と公平性確保のため) 生徒指導の基盤はホームルームにあり、基本は担任であることを意識し積極的に行う。 ボランティア活動等を通じて、優しさと思いやりの心を育成し、人権尊重の精神を養うことを目指す(本校から駅までのゴミ拾い等)。 保護者との信頼及び協力関係の形成を図る。 正装の制限をなくす(LGBTQに対応する指導) 		
5	広 報 広報活動 の充実	<ul style="list-style-type: none"> 定員520名を上回る生徒の入学。 727名【単願448名、併願279名】 男女比44:56 普通科定員充足率140% 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを最大限に活用した募集活動を行う(情報発信)。学校説明会は映像配信で対応。加えて、公式LINEより定期的にお知らせを配信。 昨年同様、外部の相談会より、学内の相談会に比重を置いた。また、推薦書発行を夏休みから行うことで、相談会の参加者を特定の日に集中させない様にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 定員520名を上回り676名を超えない入学者の確保。 個別相談数の確保(5000件)。 映像配信を利用した説明動画。 単願希望者の維持。 ホームページの迅速な更新。 LINEを利用した情報発信。 	<ul style="list-style-type: none"> 充足率121%(定員520名に対し、入学者数630名)。 オープンスクール参加者2281名、個別相談会参加者3264件 志願者数2063名(昨年比78.5%) 単願希望者448名(昨年比91.5%) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き内側に目を向ける(在校生に対し)ことで、ロコミ等の広報活動にも比重を置く。 ホームページのブラッシュアップを行い、入試情報はもちろん、生徒活動状況や学習への取り組み状況の迅速な情報発信を行う。 各説明会(中学校での進学説明会など)にて生徒の映像を利用。 公式インスタグラムの開始。 		
6	ICT 環境整備 効率的運	<ul style="list-style-type: none"> 全ての学年の生徒がChromebookを使用。主なツールとして、Google Workspaceのサービスを利用。 教務システムの情報を管理。 学校ホームページの管理・更新。 視聴覚機器を管理運用し、各種映像を作成。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の教員と情報交換を密にし、現場での端末の運用状況を注視する。 教務部と協力し、教員向けマニュアルの更新を通して、効率的な成績管理や文書発行を行う。 入試広報部と協力し、ホームページや映像作成を通じて、効果的な情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学内の生徒及び教員端末についてスムーズなトラブル対応ができたか。 成績管理や調査書等の文書発行を円滑に実行することができたか。 ホームページの内容を精査し、更新頻度を上げることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も端末の修理対応が多く発生し、現状の保証体制では対応が難しいと判断。次年度新入生は新たにiPadとAppleCareによる運用とすることを決定した。 成績管理や出欠管理、保護者への一斉配信連絡を一括で行うことができる新しい校務支援システムの導入を決定した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒用端末の変更に伴い、新しい環境を構築し、運用体制を確立する。 新しい校務支援システムの利用マニュアルを新規作成し、業務手順の周知と効率化を図る。 視聴覚機器の準備や扱いについて、より多くの生徒・教職員が対処できるよう裾野を拡大していく。 		

用

・学校ホームページ、更新作業の円滑化やレイアウト・内容の構築を高いレベルで運用できた。